

2021年 1月19日

## FD 講演会報告書

1. セミナー名      LGBTQ+がいることを前提とした授業づくり  
    Part1 : 「性的マイノリティ当事者による大学での経験」  
    Part2 : 「LGBTQ+の学生がいることを前提とした授業とは」
2. 主 催            外国語学部/グローバル・コンサーン研究所/上智大学 FD 委員会
3. 講 師 名        Part1 : LGBTQ+学生団体（くまのみ、クツシタカラ）  
    Part2 : 鈴木茂義（上智大学文学部非常勤講師）
4. 日 時            2021年1月19日  
    午後12時40分～午後14時10分
5. 場 所            Zoom 開催（オンライン）
6. 出席者          73名

### 7. 講演内容

Part1の学生団体くまのみ、クツシタカラからの報告では、授業中における教員からの配慮を欠いた発言や、セクシャリティに関するプレゼンでの不快な出来事など、性的マイノリティの当事者たちが大学で実際に経験した具体的な事例がいくつか紹介された。その上でLGBTQ+の学生側から教員側に伝えたいこととして、性の多様性の存在を前提とした授業作り、安心できる学習環境作り、学生と教員がセクシュアリティやジェンダーについて一緒に学び続けることの必要性が述べられた。

Part2の鈴木先生の講演では、はじめに先生ご自身の体験も踏まえながら、誰もが多様な社会の中でそれぞれの多様性を抱えて生きていることが確認された。次に性的マイノリティの人々を保護する法律・枠組み・制度の設定や雰囲気醸成の必要性が提起され、そうしたルール・枠組みの設定、学生生活環境作りが実際に行われている大学の事例が紹介された。

さらに鈴木先生は、真の自立とは依存先、安心できる居場所の確保であるとし、性的マイノリティの学生たちにとって大学がそうした安心安全の依存先の一つとなるよう努めるべきだと主張された。

最後の質疑応答では、教員が普段抱いている LGBTQ+ に関する素朴な疑問（外国語の人称の問題やウェルネスの授業など）に対して、鈴木先生と学生の双方からアドバイスや意見が述べられた。そして当事者を置き去りにしないルール作りに向けて、学生と教員がこれからも対話を続けることの重要性が確認された。

以 上